

ガーナにおける日本語教育現況報告

ガーナ日本語教師会
堀田善子

1 ガーナ共和国

アフリカ大陸西部、ギニア湾に面する沿岸国のガーナ共和国は、1957年にサブサハラ・アフリカで最初に独立しました。公用語は英語、各民族の言語は50以上あります。ガーナの面積は日本の約3分の2、人口は約3,412万人（2023年世界銀行）、日本とは9時間の時差があり、ガーナまで20時間以上搭乗する必要があります。

2 日本語教育の歴史・背景

1992年、日本留学経験のあるガーナ人教師によって Good Shepherd Academy（初等教育）で日本語教育が開始されました。1994年には、ガーナ大学附属 LECIAD（高等教育）で日本語教育が導入されました。その後、初等教育2校、中等教育3校、高等教育3校、専門学校1校、その他2校と拡大しましたが、コロナ禍での閉校などにより、2025年現在は、Manso Nkwanta Vocational Training Institute（中等教育）と AKWAABA NIPPON（その他）の2校となりました。

3 日本語教育実施機関

これまでのガーナにおける日本語教育実施機関

1992年 Good Shepherd Academy

1994年 ガーナ大学附属 LECIAD

2004年 Mary Star of the Sea International School

2012年 St. Roses SHS / St. Peters SHS

2017年 ガーナ大学アジア研究センター（CAS）

アクラ日本語クラス（AKWAABA NIPPON）

2018年 Regional Maritime University、St. Karol Nursing School

ガーナ日本語教師会設立

2019年 Gerking's Japanese Language School

2024年 Manso Nkwanta Vocational Training Institute

3.1 MANSO NKWANTA VOCATIONAL TRAINING INSTITUTE

SDGs Promise Japan Ghana というガーナ共和国における職業訓練設立運営支援事業で日本政府からの資金提供により 2024 年 1 月に設立しました。実習棟は 2025 年 5 月に完成、教室棟は今秋完成予定です。技術習得と日本語能力取得によって就労の拡大を目指しています。2024 年 5 月からガーナ語の一つであるチュイ語で日本語授業をスタートし、学習者数は 12 名、使用教材は GENKI 1、週に 90 分の授業を行なっています。

3.2 AKWAABA NIPPON

2017 年 4 月より、日本語能力、年齢、学習目的等を問わない誰でも参加できる地域の日本語教室としてスタートしました。近年、日本語学習者の学習目的が日本に興味がある語学学習から、日本での就労へと変革しています。現在の登録学習者は初級 N5 や N4 習得が主となっております。初級コースの学習者は約 50 名、使用教材は GENKI 1 及び 2、いろいろです。実施しているコースは、平日夜コース（6 時間／週）、土曜日コース（2 時間）、オンラインコース（3 時間／週）の 3 コースです。また、2024 年 9 月にガーナ労働省よりガーナ人材国際送り出し機関として認可を受けました。伴って日本企業や監理団体組合との面談手配及びガーナでの来日前日本語研修を実施しています。さらに、日本語教育だけではなく、ガーナでの日本文化普及活動にも力を入れています。

3.2.1 来日前日本語研修プログラム

（1）日本の無償資金協力人材育成奨学計画（JDS）

JDS とは、社会経済開発計画の立案・実施において主導的な役割を果たす優秀な行政官を育成するプログラムです。ガーナでは 2012 年に JDS を開始して以来、143 名の若手行政官がこのプログラムを通して日本での留学（修士号、博士号）の機会を得ています。AKWAABA NIPPON では、本留学生に対して来日前日本語研修 50 時間を対面で実施しています。

（2）日本就労内定者の特別研修

日本企業に就職が内定した学習者へ就労先の規定に沿った来日前研修をオンラインと対面を組み合わせたハイブリッドで実施しています。国内の日本語教育団体 RINXs と協業し、2025 年 5 月に「特別コース（日本の生活＋仕事の心構え）」を開催しました。本研修は単なる日本語習得ではなく、日本での就労に対する態度や時間の管理を身につけることを評価するため、アクラの会場で研修しました。同特別研修では、5 月来日の 2 名と、9 月来日の 3 名の計 5 名が合同で受講しました。

3.2.2 日本語及び日本文化普及活動

(1) ガーナよさこい祭り

毎年11月に行われるよさこい祭りは、ガーナ日本人会主催、在ガーナ日本国大使館の協賛のもと、2025年に第22回を迎えます。ガーナの学生によるよさこい演舞やダンスパフォーマンス、駐在日本企業やJICAガーナ事務所等が出店するなど日本文化を堪能できる祭りです。AKWAABA NIPPONでは、ガーナの日本語学習者と在留邦人と一緒にチームを作り、演舞やパフォーマンスで参加しています。

(2) OTAKU MIXER

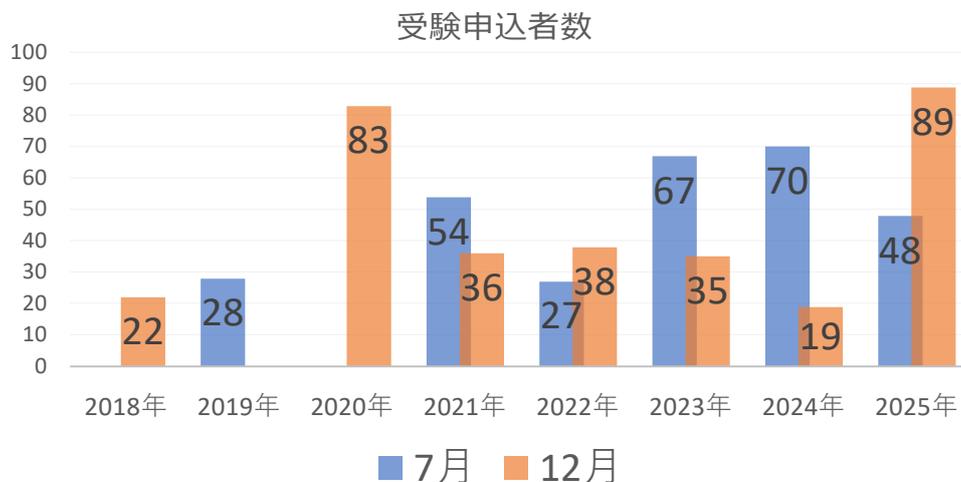
NERID CON ACCRA が主催して、アニメや漫画が好きなガーナ人のために年1回または2回イベント開催しています。当日はコスプレを楽しみ、各種物販やアクティビティなどオタクが交流する場となっています。AKWAABA NIPPONはブースを設けて、日本のゲームなど日本文化を普及する活動を行っています。

4 ガーナ日本語教師会

ガーナにおける日本語教育機関の増加に伴い、2018年に日本語教師会が設立されました。教師のための日本語教育研修を定期的に行い、年2回実施の日本語能力検定試験、スピーチコンテストの開催等の運営を担っています。

4.1 日本語能力検定試験 (JLPT)

2018年12月から年2回、アクラでJLPTが実施されています。



4.2 ガーナ日本語スピーチコンテスト

1992 年以降、在ガーナ日本国大使館との共催で開催され、2025 年度は第 30 回目となります。日本語学習者の日頃の学習成果を発表する場となり、今後さらなる日本語学習を促進しています。社会情勢を反映したテーマや、登壇カテゴリーも細分化されておりレベルに合った自発的なスピーチができよう配慮されています。ガーナ駐在日本企業からの協賛があり、優勝者が日本企業へ就職するケースもあります。

5 ガーナにおける日本語学習の変遷

ガーナ国内での若年層の就労が不安定であるため、日本で就労するという選択肢の変革が起きています。

5.1 日本語学習目的の変化

日本文化や日本語への興味から、就労・留学のためのスキル取得へ。

5.2 学習者層の変化

初等教育の学生から、中等教育以上や社会人中心の学習者層へ。

6 課題と取り組み

ガーナにおける日本語教育の質を向上させるためには、専門知識を持つ日本語教師の育成と学習目的に適した教材開発の整備が必要です。また、限られた日本語教育機関しかないため、学習機会の拡大を目指し、大学や公的な教育機関での日本語コースの開設など、ガーナの教育カリキュラムに取り入れることへ働きかけています。現在、過去に日本語授業のあったガーナ大学での授業再開や、新たな中等教育機関での年間を通じた日本語学習カリキュラムを提案し、実現に向けて取り組んでいます。

以上